合唱の楽しさ共有

ひまわりコンサート

12グループが美しいハーモニーを響かせた「ひまわりコンサート」（写真はオープニングの大合唱）

市民協働の手づくり合唱イベント「港区民音楽祭～ひまわりコンサート」が十一月二十八日、港区民センターで開かれ、区内のコーラスグループが美しいハーモニーを響かせました。同実行委員会、(財)大阪市コミュニティ協会港区支部協議会、港区役所が主催。

出演グループ全員による「ひまわりの風」の大合唱で幕を開けた後、十二グループが唱歌からポップス、ゴスペルまで幅広いジャンルのコーラスを次々と披露。中盤には「ドレミの歌」など二曲を、最後はペンライトを揺らしながら「ふるさと」を会場全体で唱和、歌う喜びを共有しました。

この中で『滝の詩』の力強いエンディングが会場をどよめかせていたのは創立二十年の男声合唱団「ワールド合唱団」。メンバーの知念常敏さん(五三)（波除）は調理師で合唱歴十数年。終演後、「みな仕事を持っているので集まること自体大変ですが、三カ月前からは週二回練習しました。合唱の魅力は皆で声を合わせる一体感、そして自分だけでなく聴く人も元気になれることでしょうか」と語っていました。

内外の名画テーマに

高田雄吉さん初のアート展

作品を案内する高田さん

八幡屋生まれの世界的グラフィックデザイナー・高田雄吉さん(五七)が十一月十六～二十一日、自身初となる「アートの個展」を北区のリーガロイヤルホテルのリーガロイヤルギャラリーで開催し、多くの来場者で賑わいました。

「ダ・ヴィンチからマティスまで　高田雄吉／美のコード」のタイトルに示されるように、展示されたのは、内外の名画の印象を色の組み合わせだけで表現するという斬新な手法による作品約三十点。

例えば葛飾北斎『冨嶽三十六景・凱風快晴』をテーマにした作品では青と茶と白の対比が冨士を取り巻く爽快な空気を、またレオナルド・ダ・ヴィンチ『モナ・リザ』をテーマにした作品では茶と濃緑の対比が女性の神秘的な雰囲気を、それぞれ象徴しているように思われ、全体として「この絵にはこれしかない！」という絶妙な色の配合が心地よく感じられました。

高田さんは「親しまれている絵をテーマに〝分かりやすい〟アートであることを意識しました。これを機に、デザインを本分としながら、アートの分野にも活動の場を広げていきたい」と話していました。

平安から現代問う

ミュージカル「山姥」に反響

平安から現代のあり方を問うた『山姥』の一場面

遥か平安から現代のあり方を問うあんがいおまる一座の音楽劇『山姥』が十一月上旬、波除の石炭倉庫などで上演されました。

―権力者を成敗しながら時空を旅する山姥。その命を狙う武装軍団。やがて疲れ果て、姿を消す山姥。書き置きには「悪はなくならぬどころかますます殺伐としていく。親が子を殺め、子が親を殺め、金が世界の中心になり…。これ以上悲しい時代には行きたくない。未来が悲しい」。その思いを受け止め、もう一人の山姥は叫ぶ。「今度は私が旅に出よう。優しさと慈しみの世界にするために」―。

平安時代とは比較にならぬほど大規模な悪が跋扈する現代。何かが間違っている。今からでも遅くない。人間本来の気高さを取り戻そう―そんな作者（綾羽一紀さん）の思いが伝わってくる舞台でした。

文化短信

●うたごえ喫茶人気　懐かしの歌声喫茶が〝復活〟、人気上昇中。店の名は『うたごえ倶楽部ねこじゃらし』。主宰の喜多陵介さんはかつて人気の大阪駅前「ともしび」経験者。女性伴奏者と共にバリエーション豊かな伴奏とユーモア溢れるトークで老若男女をリード＝**写真**。土曜十四～十六時（一飲物付千円、第三土曜休）。波除五―七―六（JR弁天町駅北口歩二分）。☎六五八一―八七六〇。

人生劇場

みなと

私の絵画人生の原点となった「桜島」。1948年11月23日、買ったばかりの油絵の具で小さなベニヤ板に描いた

〔第1幕〕

平和の願い画布に込めて

川島恵美子さん(80)（八幡屋）

―あれから六十余年。曲がりなりにも絵画一筋に生きてきた私ですが、このほど港新聞さんからお勧めがあり、皆様に私の生きざまを「人生劇場」としてお聞きに頂くことになりました。覚束ない語り口でお恥ずかしい限りですが、ここからたとえ僅かなりとも何かを感じ取って頂ければこれほど嬉しい事はございません。

◇

私は昭和五年十月、兵庫県神宮町に生まれました。七人兄弟姉妹の第四子（三女）でした。父は朝鮮で建築の仕事に就いていたので、小さい頃はほとんど顔を合わせた記憶がありません。

生家は揖保川中流の山中にあり、戦争の影響はあまり受けないように思われましたが、満州事変から日中戦争へと戦争状態が深まる中、母の実家がある鹿児島県川内市へ移りました。

そこの小学五年生だった昭和十六年十二月には米英とも戦争になり、尋常小学校は国民学校と名を変えました。私は気管支炎を患うなど体が弱くて「病弱組」に入れられ、肝油を飲まされた記憶があります。

心とらえた雄大な自然

絵画人生の原点となった桜島

◆女学校で防空壕造り

昭和十九年、父は「この戦争は危ない」と判断し、日本へ帰って来ました。現地で築いた財産は持ち帰れず、体一つの帰国でしたが、終戦時の引き揚げ者のような悲惨な目に遭わずに済んだのは幸運でした。

そのころ女学校の生徒だった私は、上級生に付いて出征兵士の家の田植えや稲刈りを手伝いに行ったり、校庭や近くの山に防空壕を造ったりしていました。

昭和二十年に入ると鹿児島にもB29が飛来し、姉は軍需工場で空襲に遭いました。多くの建物が焼けた中で家は焼けずに済みましたが、家財道具を伯父の牛車に載せて慌しく避難したのを覚えています。

◆敗戦に衝撃と安堵

八月十五日、終戦。「日本は最後には勝つ」と信じていたので敗戦はショックでした。それでも「もう怖い目に遭わなくて済む」という安堵の方が強かったのは事実でした。一週間後に出陣を控えていた兄は終戦で命拾いし、結局、家族に犠牲者は出ませんでした。しかし遠い親戚の男性は長崎で被爆したと聞きました。

昭和二十三年。女学校が「高等学校」と名を変える少し前のこと。私は美術部に入り、そこで冒頭にお話したような桜島での出来事があったのです。戦争のない平和の中の自然、その美しさ、雄大さ―。この感動が、以後の私の長い絵画人生の原点となったのです。

（つづく）

桜島を描いた日の私(右)と友人(左)と長谷川先生

日本気導術学会チャリティー教室
タイのエイズの子供たちを支援しながらあなたも健康で美しく
ウォーキング教室（スリムをつくる歩き方）
12月は「免疫力アップと腰痛改善に役立つ立ち方・歩き方」をテーマに行います。
●日時…12月16日(木)10:30～12:00
●場所…港区民センター（弁天2-1-5）2階「橘」
●持ち物…紐つきスニーカー
●支援金…1口500円（お志）
★山下文博さんのタイ・エイズの子どもたちへの癒し施術の支援です
お問合せ　快生堂整骨院内堀川（日本気導術学会 担当理事）
磯路2-12-1公団磯路109　☎080-1404-4339

住まいの防犯レベル高めよう
①ワンドア・ツーロックは常識
②ピッキングに強いカギに交換
③窓にも補助錠の取り付けを
PHS・携帯OK　0120-70-5569
（アーイアート）港カギ防犯センター
安心・安全をご提供します
港区港晴1-4-8（港晴小学校並び）
☆大阪府錠前技術者防犯協力会会員
☆港防犯協会会員　☆防犯設備士第00-6738号

次世代に戦争体験等を伝えよう
二度とあんな悲惨な思いを次の世代にはしてほしくないとの一念で、それまで子供にも語っていなかった、南方からの輸送船での引き揚げ体験を思い切って聴いて頂きました。出来上がった冊子を娘と読みながら、一緒に声をあげて泣きました。（夕凪・70代女性）
400字（原稿用紙1枚）で千円が標準料金です。
お話をききとり、冊子にしてお渡しします。
田中3-3-3 飯田編集事務所 ☎6571-4636

シャンソン喫茶　ガットネロへ
港区のシャンソン歌手・松浦由美子のお店。毎月第1㊎19時「クラシックカフェ」、最終㊎19時「はなまるカフェ」など楽しい企画一杯！
天王寺区上本町6-2-37-2F ☎6767-0012
http://www010.upp.so-net.ne.jp/gatto-nero/

味で勝負！
本格炭火焼の焼鳥、もつ焼を大衆料金で。女性や家族連れも楽しめますよ。
二代目・津田幸樹さん
来てや！
やきとり もつやき 津～ちゃん
磯路3-1-1バス停港区役所前 定休日:木曜
☎6574-5137　営業17:30～23:30（ラストオーダー23:00）